

明けましておめでとうございます。みんな元気にやっていますか。早いなあ、もう 2009 年になりましたね。あと数ヶ月でみなさんも小学校を卒業ですね。ラストスパート、いろんなことに頑張って取り組んでいることでしょう。今を大事にして生きるって大切な、と最近強く思います。「今」の時間は二度と戻ってきません。皆さん、どうぞ何事にも一生懸命に取り組んで後悔しない人生を自分で築いていってください。さて今回は2ヶ月間の長期休みの間に日本から来た友人とウガンダ国内を旅行したのでそれについて書こうと思います。

ウガンダでも動物は見られるの？

アフリカというと野生の動物、そして野生の動物というとケニアやタンザニアの国立公園を思い浮かべますが、ここウガンダにもたくさんの動物を見ることができます。「ゲームドライブ（サファリ）」といって車に乗って野生の動物を探しながらドライブします。

ウガンダ西部の**クイーン・エリザベス国立公園**で最初に見た動物は**カバ**です。1日目宿に着いたのが遅く夜8時過ぎになってしまったのですが、宿へ行く途中陸に上がったカバが元気に草を食べている様子を見ることができました。カバは夜行性なんですね。動物園であまり動かないカバしか見たことのない私のカバに対する印象は一気に変わりました。2日目午後のボートサファリでは水辺で休んでいるカバも見ることができました。家族ごとに集まって水辺で休んでいました。



2日目朝は6時半からゲームドライブへ出発。なんととても簡単に国立公園に入るゲートの前でメスの**ライオン**と子どもに出会うことができました。バッファロー、ウガンダンコーブ（鹿の仲間）、イボイノシシなどいろいろな動物が見られました。途中遠くに黒ヒョウとライオンのオスがいたようですが、あまりにも遠くて丸い点が動いているようにしか見えなかったのが残念。次は双眼鏡を準備して行かねば。

しかしお目当てのゾウが見つからない！10時ごろ宿にもどって朝食のはずでしたが、ドライバーさんも一生懸命になってゾウを探してくれました。11時も過ぎてしまいあきらめて宿にもどろうとしたそのとき、道を横切る**ゾウ**の群れに出会うことができました、しかも2度も！

きれいに1列になって水辺へ向かって歩いていきます。たまに立ち止まりこちらをじっと見つめ威嚇くいかく>しているゾウもいます。ゾウってこんなに

大きいんだなあ、と、広い草原を歩いているゾウをずっと眺めていました。

3日目の朝は、**カリンズ森林保護区**へチンパンジーを見に行きました。こちら運によっては見られないこともあります、ラッキーなことに**チンパンジー**の母子を見ることができました。チンパンジーは人間に最も近いといわれている動物です。

ウガンダ北西部にはウガンダ最大の面積を持つ**マーチソン・フォールズ国立公園**があります。ここにはクイーン・エリザベス国立公園では見ることのできないキリンがいます。もちろん、ゾウ、カバ、ライオンなどの動物も見られます。

初めて自然界のキリンを見たときは「きれい」と思いじっと眺めてしまいました。写真でこの草原の広さが伝わらないのが残念です。360度ずっと草原が続いているのですから。

シマウマはこの国立公園にもいるのかと思ったら、残念ながらこの2つの国立公園にはいないということでした。しかしクイーン・エリザベス国立公園へ行く途中、道路沿いにシマウマを見ることができました。



ぜいたくな感想ですが、動物園の動物が動物らしくなく感じました。でも一度自然界の動物を直接見ることで、次に動物園で動物を見たときはどういう環境の中に住んでいたのかを想像しながら見るができるような気がします。こうやっていつまでも動物が見られる環境を守ること、人間と動物がうまく共存していくことが大切だと思いました。

初めておぼれました！

みなさん、ラフティングって知っていますか？8人のゴムボートにて、オールでこぎながら川を下っていく遊びです。激流のポイントがいくつかあり、ボートが転覆することもあります。世界1長いナイル川はビクトリア湖の北側、つまりウガンダ国のジンジャーという町から始まり、この川をゴムボートで30km下っていきましました。

ラフティングをする前は、川をのんびり下っていき、激流ポイントで落ちたとしても泳げるし私は大丈夫、なんて思っていたのですが、いざ激流に飲まれて水の中に入ってしまうと大変！水中で渦に巻かれながら息ができるように必死でもがきました。顔が水面に出たやっと息ができる、と思ってまた次の波がやってきて水をたくさん飲むだけ。「おぼれるってこういうことなんだあ。泳げるからって過信してはいけないうってこういうことだったんだあ」とおぼれるということがどういうことが身をもって体験しました。そばについているカヤックの人に助けられ無事救出されました。

その後は、もうこんな思いはしたくないと半日で切り上げようと思いましたが、次にボートが転覆したときはあわてず対処することができたので、ラフティングを楽しむことができ、最後まで続けることができました。おぼれたときに「あわてないこと」が1番大切だということがよくわかりました（でも、あわてちゃうよねえ）。



ウガンダ夕方6時＝日本夜中12時 A Happy New Year !

ウガンダはキリスト教の人が60%いるためクリスマスのほうが盛大にお祝いされます。しかし、日本はクリスマスよりも年末年始のほうにどちらかというと重点をおきますよね。

12月31日の夕方6時、近所の子もたちと一緒にまずは日本時間のカウントダウン、新年のお祝いをしました。日本から来た友達が出てきてくれたソバとチラシ寿司を用意して。案の定6時前にはみんな集まりませんが、6時すぎるとどんどん人が集まってきて、総勢30名、日本食会のようにになりました。日本食を食べるというよりもお箸で何かを食べるということのほうがめずらしかったかもしれません。箸の使い方も教えて、楽しい日本時間の新年を迎えました。

次はウガンダ時間の新年です。夜中の12時まで、なんだか2回新年を迎える感じでこの6時間は不思議な時間を感じました。プシアの町のカウントダウンはどのように祝うのだろうとウガンダ人の知り合いと一緒に町へ連れて行ってもらう予定でしたが、おいてけぼりにされてしまい、結局学校の敷地から出ることもなくグラウンドで友達と近所の子とウガンダの新年を迎えました。

12時、小さな打ち上げ花火がいくつか上がりました。それと同時にあちこちで歓声が聞こえます。すると子どもが言いました。「あれは、みんなで頭をたたきあっているんだよ」「警察もいっぱい町に出ているよ」「あっちの空が赤いのはタイヤを燃やしているからだよ」と。町に出て直接見られないのが残念でなりませんでした。何かの事故に巻き込まれては大変なので、しばらく空を眺めて床につきました。（流れ星も見ることができました。）

***** ウガンダ便り2号振り返り *****

この便りを書くとき、前にどのようなことを書いたか見直しました。すると2号には3学期に何をするか自分の意気込みが書かれていることを思い出しました。恥ずかしい！でも書いたからにはどうだったのか少し伝えないとね。

体育では三角キックベースボールとハンドベースボールを高学年で行いました。子どもたちが見たこともないスポーツを私1人で教えるのは本当に大変でした。ルールを教えたり、どこへボールを投げればよいのかゲーム運びを教えたり。打順を決めているにもかかわらず、すぐに忘れてしまうのか、守ろうとしないのか、攻守が変わるたびにめめました。

1年生の算数にも入りました。「6は1と5、2と4、3と3からできている」という初歩的なものを教えました。ウガンダの教える方ではいつまでたっても「2+4」の問題を、棒を書いて数えているからです。繰り上がりの足し算や引き算がしっかりできていないのに、2けたの計算やかけ算、分数を1年生で教えているのも少し難しいです。



<編集後記>みんなにウガンダはどういうところか少しは興味をもらえたかな。地図帳などを広げてウガンダの位置や周りの国のことなども見てもらえるとうれしいな。特に年末にはウガンダ隣国のコンゴで内戦が悪化、またイスラエルのほうでも争いが続いているよう。世界中でまだまだ争いが起きている。ニュースなどでいろんな地名を聞いたとき、すぐに地図帳を広げて見て欲しいな。地球は1つ、大きいようで小さい、遠いようで近い、身近な問題に感じて欲しい。私も知らないことがまだまだいっぱい。もっともっと勉強しなければ。【鶴田佳代子】

Kayoko TSURUTA
JICA UGANDA OFFICE
P.O.Box. 12162
Kampala UGANDA